

【生徒の実態】

- ・朝食摂取率 〇%
- ・偏食傾向の生徒 〇%
- ・野菜摂取率 〇%
- ・規則正しい食習慣を身に付けることが大切だと考える生徒 〇%

【保護者、地域の実態】

- ・朝食摂取率 〇%
- ・野菜摂取率 〇%

【課題】

- ・食事の重要性は概ね理解できているが、実践できている生徒は少ない。

食育の視点

- ◇食事の重要性
- ◇心身の健康
- ◇食品を選択する能力
- ◇感謝の心
- ◇社会性
- ◇食文化

学校教育目標

「
」

※教育目標・めざす生徒像、学校の教育方針等を記述する。

参考指標

【第4次食育推進基本計画】 R3-R7
 <重点事項>
 ・生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進
 ・持続可能な食を支える食育の推進
 <目標>
 ・郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている国民の割合 50%以上

【第3期奈良県食育推進計画】 H30-R4
 ・朝食を毎日食べていないと回答する児童生徒の割合減少

【第2期奈良県教育振興大綱】 R3-R6
 ・「食育の日」の取組の推進

食に関する指導の目標

（知識及び技能）
 食事の重要性や栄養バランス、食文化等についての理解を図り、望ましい食習慣を身に付ける。

（思考力、判断力、表現力）
 望ましい食習慣について、正しい知識や情報に基づき自ら判断し食品を選択する能力を養う。

（学びに向かう力、人間性等）
 食料の生産等に携わる人々に対して感謝する心を育み、食を通じた人間関係形成能力を養う。

高等学校入学前

自分の健康について課題を見つけ、健康を保持増進しようとする。※その他、小・中学校

各学年の食に関する指導の目標			
1年	2年	3年	4年
〇〇〇を理解し、〇〇〇できる。 ●●●し、●●●できる。 □□□して、□□□ができる。	〇〇〇を理解し、〇〇〇できる。 ●●●し、●●●できる。 □□□して、□□□ができる。	〇〇〇を理解し、〇〇〇できる。 ●●●し、●●●できる。 □□□して、□□□ができる。	〇〇〇を理解し、〇〇〇できる。 ●●●し、●●●できる。 □□□して、□□□ができる。

高等学校卒業後

望ましい食習慣の在り方を理解し、自分や周囲の健康について課題を解決し、健康を保持増進しようとする。

食育推進組織（〇〇委員会）

委員長：校長（副委員長：教頭）
 委員：主幹教諭、教務主任、保健主事、養護教諭、学年主任、教科主任、体育主任、学級担任
 ※必要に応じて、保護者代表、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の参加

家庭、地域との連携

学校だより、食育（給食）だより、保健だより、家庭教育学級、学校保健委員会、講演会、料理教室、ホームページ等を活用した積極的な情報発信、関係者評価の実施、地域ネットワーク（人材バンク）等の活用

教科等における食に関する指導の年間計画			
教科等	1学期	2学期	3学期
地理歴史公民	【日本史】衣食住の変化	【地理】食料問題	【世界史】世界の食文化
理科	【化学】人間生活の中の化学	【生物】微生物とその利用	【生物】生物の体内環境の維持
保健体育		【1年保健】「食事と健康」	【2年保健】「食品衛生」
家庭科	【家庭・基礎】食事の計画【家庭・発展】調理実習	【保育・選択】子どもの食事	【フードデザイン・選択】地場産物を活用したお弁当作り
その他の教科	【農業】野菜や果樹の栽培	【美術】美味しさを表現する色彩	【英語Ⅰ】世界の食べてみたいレシピ
総合的な探求の時間	【ならTIME】大和野菜について	【ならTIME】奈良の食文化の探求	【ならTIME】奈良の郷土料理について
特別活動	HR	食事の環境作りとマナーについて	食生活実態調査の実施
	生徒会活動	食育月間の啓発活動	ポスターやリーフレットの作成
	学校行事	食育月間（食育の日）の取組	文化祭（食品を扱う場合の衛生指導）
部活動等	運動部活動加入生徒を対象とした食事指導	パフォーマンス向上とけがの予防のための食事指導	地場産物を活用した商品開発
個別指導	健康相談（食物アレルギー対応等）	定期健康診断後の事後指導	個別相談指導の実施
家庭地域との連携	健康相談（食物アレルギー対応等） ゲストティーチャーの活用	食育講演会の開催、地域イベントでの野菜等の販売	学校保健委員会の開催
職員研修等	アレルギー対応研修と対象生徒の情報共有	緊急時対応訓練の実施	食育推進委員会の開催

食育推進の評価

※実態から目標を設定し、年度末の実績により推進状況を評価する。
 活動指標：食に関する指導の実施回数等 現状値〇回→目標●回→実績□回
 成果指標：規則正しい食習慣を身に付けることが大切だと考える生徒の割合 現状値〇%→目標●%以上→実績□%